

# 糖尿病と歯周病の 関係について

担当医



久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医  
医療法人財団百葉の会 銀座医院  
院長補佐・抗加齢センター長

## 歯周病の治療後に数値が改善したYさんのケース

患者氏名	Y・K 様	年齢	59歳	性別	男性	現病歴	脂質異常症 軽度の腎症
------	-------	----	-----	----	----	-----	-------------

歯周病がさまざまな病気のリスクを上げることがは、私たち医師の間では広く知られた事実です。

歯周病は、歯垢の中に存在する歯周病菌が歯茎に炎症を起こす病気です。症状が進行すると歯がぐらついたり、抜けてしまったりしますが、それだけではありません。

歯茎の炎症によって生まれた物質が血管に入り込んで動脈硬化を引き起こし、心筋梗塞や脳梗塞などになりやすくなります。

私の患者であるYさ

んは飲酒・喫煙の習慣があり、しばらく血糖コントロールの悪い状態が続いていました。血糖値が258mg/dL、ヘモグロビンA1cは

9.5%。飲み薬だけでは難しくなってきたので「そろそろインスリン治療を」というところまできていました。

ところがその2か月後に受診された際には血糖値が202mg/dL、ヘモグロビンA1cは8.5%に下がっていたのです。

何か特別なことをされたのか伺うと「ひと月かかって徹底的に歯

の治療をしたんですよ」とおっしゃいます。歯科医院で歯周ポケットをきれいにしてもらい、歯周病を治したそうです。

歯周病が糖尿病を悪化させることはわかっていたものの、歯周病の治療後にヘモグロビンA1cが1%も改善した例を見たのは初めてでした。

とはいえ、Yさんの数値はまだ正常値にほど遠く、今後もしっかりと治療にあたっていきたいと思えます。

